

第2日(5月12日)

○研究発表

- 10 地域的男女差の異常について……………佐藤 峰雄(大分県日田保健所)
- 11 八重山群島, 黒島における乳児死亡, 分娩状況および人口変動
について……………吉村 健清(九州大学)
倉恒 匡徳(九州大学)
- 12 わが国夫婦の基本妊娠率について……………青木 尚雄(人口問題研究所)
- 13 最近のわが国出生力の動向……………小林 和正(人口問題研究所)
山口 喜一(人口問題研究所)
- 14 日本人の出生, 死亡と人口(生残)の年次推移の研究——死亡
表解明のための一つのころみ——……………飯淵 康雄(大阪大学)
- 15 韓国のモデル生命表について……………石 南国(函館大学)
- 16 1965年都道府県別生命表……………水島 治夫(九州大学)
重松 峻夫(鳥取大学)
- 17 人口移動と人口学的基本構造, 再生産力との関係……………上田 正夫(人口問題研究所)
- 18 人口指標を中心としてみた, わが国民の生活像に関する人間
生態学的研究……………山本 幹夫(順天堂大学)

○シンポジウム

- 2 人口老年化に関する諸問題……………司会…安倍 弘毅(久留米大学)
- (1) 近代化と人口の老年化……………安川 正彬(慶応義塾大学)
- (2) 長寿率からみた人口老年化の実態……………江崎 廣次(久留米大学)
- (3) 老年者の心臓……………木村 登(久留米大学)
- (4) 農村における人口老年化の分析と問題点……………柳澤 文徳(東京医科歯科大学)
- (5) 人口老年化と社会保障制度の将来の問題……………井手 一郎(聖マリア病院)
- 特別発言……………水島 治夫(九州大学)

(小林和正記)

東 亞 人 口 研 討 会 議

東亜人口研討会議(Workshop Conference on Population Problems in East Asia)は, 1968年5月1日から5月7日までの1週間にわたり, アメリカ人口研究協会(Population Council), 中華民国婦幼衛生協会(The Maternity and Child Health Association of the Republic of China) および中華民国政府の共催の下に, 台湾省台北市中央政治大学において開催された。

参加者は韓国, 日本, 琉球, 台湾, 香港, フィリピン, ラオス, ベトナム, インドネシア, タイ, シンガポール, マレーシアの12か国の代表と Population Council の東アジア各地の代表, アジア開発銀行, 世界銀行, 国際家族計画連盟の代表等であって約70名に達した。本研究所の人口移動部長黒田俊夫技官は日本政府代表としてこれに出席した。その他, 国立公衆衛生院村松 稔家族計画室長, 国際家族計画連盟片桐為精西太平洋地域事務局長が参加した。

この会議の議題は, (1)経済発展に及ぼす人口圧力の影響, (2)家族計画プログラム: その現状, (3)プログラムの財政問題, (4)家族計画における評価, (5)要員の募集, 訓練, 監督に関する諸問題, (6)特定の避妊方法におけるプログラムの諸問題であって, さらに最後に, グループ別討論として「東亜における家族計画プログラムの経験の最善の利用の仕方」が行なわれた。

本会議はすべて panel discussion 方式によるもので、各国代表はそれぞれいずれかの panel session に割り当てられるとともに group discussion (AからEまでの5グループ)においてもそれぞれメンバーとしての役割を持った。とくに注目すべき点は、台湾政府が家族計画を国の政策として承認し、5月2日に公表したことであって、この会議における台湾主催者側に対してのみならず、参加各国の代表者に強い印象を与えた。また、家族計画を正式に取り上げるに至っていないこの地域の多くの国々の中で、韓国と台湾はそれぞれ背景を異にしながらも、家族計画運動の先駆者として指導的な役割を演じていたことが注目される。

本会議は最後に勧告を作成したが、その中でとくに留意すべき点は、今度の台北会議と同様な性格をもった「東亜人口会議」を毎年順番制によってこの地域内で開催することを決定し、その具体的な問題を討議するため5人委員会(韓国、台湾、インドネシア、シンガポール、タイ)を設置したことである。

(黒田俊夫記)

ベルギー人口学会の設立

ベルギーの Université Catholique de Louvain の Département Démographie de l'Institut de Recherches Economiques, Sociales et Politiques の Dr. Guillaume Wunsch より6月17日付で本誌編集者あて連絡あり、去る4月25日にベルギーの人口専門家約30名が会合し、Belgian Demographic Society を設立することを決定したので、そのことを本誌に紹介してほしいとの依頼があった。

同学会の役員はつぎのごとくである。

- J. MORSA (Université Libre de Bruxelles and Centre d'Etude de la Population et de la Famille) : Chairman
 R. MOLS (Faculté Saint-Albert, Egenhoven-Louvain) : Vice-Chairman
 H. DAMAS (Centre d'Etude de la Population et de la Famille) : Treasurer
 G. WUNSCH (Université Catholique de Louvain) : Secretary General

(小林和正記)

〔訂正〕 本誌前号の「書評」のなかで、次の個所に誤植があったので訂正する。

ページ	行	誤	正
69	上から 16	Ⅱだれが、何を、どこで	何を、どこで
"	" 22	総熱量を90カロリーと	90万カロリー
"	" 30	Jacques M. may 博士	May 博士
"	" 36~37	「新都市の憂うつ病といった	憂うつ病」と